

2019年3月12日

## 北海道知事選挙にあたっての公開質問状

北海道知事選挙予定候補

殿

JR北海道研究会 代表

唐渡 興 宣 (北大名誉教授)

私たちは今般の北海道知事選挙にあたり、北海道のJR問題について明確で責任ある政策議論がなされ、道民の判断が下されることが、北海道の未来にとってきわめて重要であると考え、別紙のようなアピールを発表いたしました。つきましては、北海道のJR問題について、知事選挙予定候補としての所見を伺いたく、以下の質問項目を用意致しました。

告示前で何かとお忙しいこととは存じますが、私たちの意をお汲み頂き、質問にお答え頂ければ幸いです。よろしくお願い致します。

なお、お忙しいところ大変恐縮ですが、告示前に一人でも多くの道民にご回答をお知らせし、北海道のJR問題についての議論を深めて頂きたいと考え、勝手ながらご回答（事務局へ郵送・Fax・メールいずれでも可）期限を3月16日（土）とさせて頂きました。

質問項目（回答は別紙）

1. 現在起きているJR北海道の経営問題について原因と責任の所在をどのようにお考えですか。
2. 今後の地域の発展と鉄道のことをどのようにお考えですか。
3. JR北海道が維持困難としている13線区と新幹線延伸に伴う並行在来線について、解決の具体策をどのようにお考えですか。
4. 分割民営化の評価と今後目指すべき鉄道存続の枠組みについて、お考えがあればお聞かせください。
5. 当選された場合、知事としての問題解決に向けた決意と展望をお聞かせください。

JR北海道研究会（50音順）

浅川雅己（札幌学院大学准教授）、奥田仁（北海学園大学名誉教授）、唐渡興宣（北海道大学名誉教授）、川村 雅則（北海学園大学教授）、小田清（北海学園大学名誉教授）、小坂直人（北海学園大学教授）、高田純（旭川 大学教授）、武田泉（北海道教育大学准教授）、地脇聖孝（鉄道問題研究家）、美馬孝人（北海学園大学名誉教授）、宮田和保（北海道教育大学名誉教授）

<返信先・事務局> 小田 清

〒063-0849 札幌市西区八軒9条西2丁目 1-15

TEL・FAX. 011-631-8105 携帯TEL 090-5225-3333

E-mail koda1947@dream.bbexcite.jp

<鈴木候補・回答用紙>

公表の都合上、各項目100字程度で端的にお答えいただき、補足すべきことがあれば別紙で頂戴できれば幸いです。

1 現在起きているJR北海道の経営問題について原因と責任の所在をどのようにお考えですか。

JR北海道による経営改善に向けた更なる努力は当然ですが、一方で人口減少に加え、モータリゼーションの進展など、社会経済状況の変化が利用者数の減少を招き、経営に大きな影響を与えたものとする。

2 今後の地域の発展と鉄道の関係をどのようにお考えですか。

多くの道民の日常的な足であり、また一次産品の道外移出にも貢献するなど、地域の発展に重要な役割を持っている。特に観光客など交流人口の拡大による広域的な移動手段としても、JRの果たす役割は重要と考える。

3 JR北海道が維持困難としている13線区と新幹線延伸に伴う並行在来線について、解決の具体策をどのようにお考えですか。

地域の日常的な足として、また、今後拡大が見込まれる観光需要を地域に呼び込む役割も期待されることから、望ましい地域交通の在り方やJR北海道の果たす役割について、幅広い観点から多角的に検討していく必要があると考える。

4 分割民営化の評価と今後目指すべき鉄道存続の枠組みについて、お考えがあればお聞かせください

経営環境が厳しいものとなることは国鉄の分割民営化当時から想定されており、国は、経営安定基金の運用益で対応させることとしていたが、長引く低金利の影響などで対応策が十分機能していない状況にあることから、経営支援策が時代の変化に即したものとなるよう、再構築すべき。

5 当選された場合、知事としての問題解決に向けた決意と展望をお聞かせください。

必要な鉄道は残すということをお大前提に、地域の実情や市町村の意見などを踏まえ、関係機関による検討・協議を早急に進めていく。道民の足をいかに守るかを第一に考え、鉄道やバスといった北海道の経済や地域生活を支える公共交通の利便性の向上を図っていく。

2019年3月19日

JR北海道研究会

代表 唐渡 興宣 様

石川ともひろ

### 「北海道知事選挙にあたっての公開質問状」への回答

唐渡代表はじめ貴研究会におかれましては、北海道の鉄道の再生・存続に向けた取り組みならびに北海道の交通政策に関する精力的な提言活動に対しまして、心より敬意を表します。

このたび頂きました標記公開質問状につきまして、石川ともひろの政策と考え方をお答えします。

#### [質問項目と回答]

1. 現在起きているJR北海道の経営問題について原因と責任の所在をどのようにお考えですか。

【回答】経営安定基金運用益の低下など分割・民営化スキームの破綻に対し、抜本的な対策を講じなかった国に大きな責任があります。大幅な人員削減や安全投資を軽視した利益優先の経営も重大事故を招き経営悪化につながりました。

2. 今後の地域の発展と鉄道との関係をどのようにお考えですか。

【回答】クロスセクター効果が期待される鉄道は、少子高齢化と過疎化が進む地域社会を維持する上で欠かせない交通手段です。さらにインバウンドの受入拡大など観光振興、農業生産物の輸送、交通網の代替性確保の面でも鉄道は重要です。

3. JR北海道が維持困難としている13線区と新幹線延伸に伴う並行在来線について、解決の具体策をどのようにお考えですか。

【回答】並行在来線は、鉄道貨物や代替性確保、まちづくりの観点から、道がリーダーシップ

を發揮して関係市町村、住民、JRなど交通事業者との議論を尽くし結論を導きます。十分な時間を確保し拙速な議論とならないようにします。

4. 分割民営化の評価と今後目指すべき鉄道存続の枠組みについて、お考えがあればお聞かせください。

【回答】分割民営化には光と影があり、経営が好調な本州会社でも赤字で廃止された地方路線があります。鉄道を公共インフラと位置づけ、中長期的には国が「下」を持つ上下分離を展望して、必要な法制度を国に求めていきます。

5. 当選された場合、知事としての問題解決に向けた決意と展望をお聞かせください。

【回答】路線見直し問題は廃止を前提とせず、立ち止まって検討します。道として鉄道を含めた地域交通の将来像を示すとともに、沿線市町村・関係者と連携して「地域交通網形成計画」を策定し、計画の実施主体として鉄道の存続と活用をめざします。

以上

# 道知事選

2019

## JR路線見直し 2氏の回答公表

市民団体

JR北海道の路線見直し  
問題で、大学教授らでつく

る市民団体「JR北海道研  
究会」は20日、道知事選(21  
日告示、4月7日投票)  
2. に立候補する鈴木直道前夕  
3. 張市長(38)と石川知裕元衆  
院議員(45)への公開質問状  
に対する両氏の回答を公表  
した。

ねた。経営難の原因につい  
て、鈴木氏は「人口減やモ  
ーターゼーションの進展な  
ど社会経済状況の変化」を  
挙げ、石川氏は「分割民営  
化の破綻に抜本的対策を講  
じなかった国に責任があ  
る」とした。

策が時代の変化に即したも  
のとなるよう、再構築すべ  
きた」と、石川氏は「国が鉄  
道施設を保有する上下分離  
方式に向け、必要な法制度  
を国に求める」とそれぞれ  
回答した。

研究会は「両氏とも、鉄  
道の重要性を認め、地域の  
意見を尊重している」と口  
メントした。12日に質問状  
を送っていた。  
(中村征太郎)

北海道新聞  
(16版5面)



